

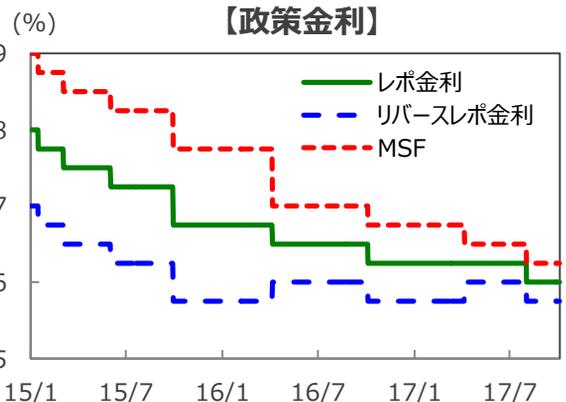
**今日のトピック** インドの金融政策（2017年10月）

**政策金利は据え置き、株式・債券・為替は底堅い見込み**

**ポイント1**

**政策金利は据え置き  
据え置きは市場の予想通り**

- インド準備銀行（中央銀行、以下RBI）は10月4日の金融政策委員会で、政策金利（レポ金利）を6.00%で据え置くと決定しました。一方、法定流動性比率を20.0%から19.5%へ引き下げることを決定しました（10月14日発効）。



(注1) データは2015年1月1日～2017年10月4日。

(注2) MSFは、Marginal Standing Facility（貸付ファシリティ）の略で、コールレートの上限とみなされます。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ポイント2**

**経済見通しを下方修正  
物価見通しは上方修正**

- RBIは、2017/18年度のGVA成長率（生産面からみた成長率）の見通しを、7.3%から6.7%へ引き下げました。7月の物品サービス税（GST）導入の影響で2017年4-6月期の成長率が下振れたことなどが主因です。4-6月期のGVA成長率は前年同期比+5.6%だったことから、今年後半にかけて、成長率は加速すると考えられます。
- 物価については、2017/18年度後半の消費者物価上昇率の見通しを前年度比+4.0～4.5%から同+4.2～4.6%へと上方修正しました。8月の消費者物価指数は前年比+3.36%と、7月の同+2.36%から上昇率が拡大しました。



(注1) データは2015年1月1日～2017年10月4日。

(注2) インドルピーは逆目盛。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**今後の展開**

**株式、債券、為替は底堅さを  
取り戻すと見られる**

- RBIは政策スタンスの中立を継続しており、金融政策は当面据え置かれると見られます。今後のインド株式市場は、景気の持ち直しに加えて、中長期的にはGST導入による経済の効率化から企業の利益成長の加速が期待されることなどから、堅調な推移が見込まれます。一方、RBIの物価見通しが上方修正されたことを一因として、4日のインド債券市場は下落しました。インフレの上昇はある程度抑制される見込みであるため、更なる金利上昇の余地は限られ、債券市場は落ち着きを取り戻すと思われます。インドルピーは、経済の高成長や改革期待を背景とした資金流入が期待されることから、対米ドルで底堅く推移すると見込まれます。

**ここも  
チェック!**

2017年9月29日 **インド市場の現状と見通し（2017年9月）**

2017年9月28日 **アジア通貨の動向（2017年9月）**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。